

# 「喜界中学校の埋蔵文化財探訪の取組」

## 1 学校名

喜界町立喜界中学校

## 2 学年・人数

第2学年 57人

## 3 日時・場所

### (1) 学習会等の日時・場所

平成28年11月21日(月)10:00～ 喜界町埋蔵文化財センター

### (2) 発表の日時・場所

特に設定はしていないが、学習したことを紙面にまとめ、校内に掲示している。

## 4 活用に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について

### (1) 名称・時代

- ・ 先山遺跡(さきやまいせき):縄文時代
- ・ ハンタ遺跡(はんたいせき):縄文時代
- ・ 城久遺跡(ぐすくいせき):平安時代

### (2) 特徴

喜界島には現在、131の遺跡がある。1985(昭和60)年の先山遺跡に始まりこれまでに数次にわたり発掘調査が実施され、その成果として縄文時代前期の約6,000年前に喜界島に人が住んでいたことや平安時代(9世紀)～室町時代(14世紀頃)にかけての大規模な集落があったことや、九州や沖縄などの南北両地域との盛んな交流が行われていたことなどが分かっている。

- ・ 先山遺跡:1986(昭和60)年6月に調査され、縄文時代後期の土器や古墳～平安時代の土器・石器が出土した。動物(イノシシ)の骨も出土していて、生息していた可能性がある。
- ・ ハンタ遺跡:1986(昭和60)年7月に調査され、縄文時代晩期を中心とする居住跡群が検出された。
- ・ 城久遺跡群:2003(平成15)年5月から調査が始まり、現在も継続中である。城久集落を取り巻く8遺跡の総称である。古代(平安時代)の9世紀～10世紀の時期と中世の11世紀後半～12世紀頃、13・14世紀頃の3つの時期が中心であると思われる大規模な集落群跡。堀立柱建物跡が約300棟、土杭墓が約40基確認されていて、その数や種類は南西諸島では他に類をみないものである。北側(九州など)や南側(琉球)との交流を示す多数の陶磁器などが出土された。

## 5 保存会や地域との連携の具体

第2学年の総合的な学習の時間に「城久遺跡群体験学習」を行った。喜界町埋蔵文化財センターを訪れ、センター職員による遺跡群についての説明を聞いた後、発掘作業の体験学習を行った。

## 6 活用の取組の工夫した点

毎年、第2学年の総合的な学習の時間に位置付けることで、中学校在籍中に必ず体験活動ができるようにしている。また、埋蔵文化財センターの協力により、発掘作業を体験させて、より直接的な体験活動になっている。

## 7 取組の様子



「埋蔵文化財センター職員による説明」



「発掘作業体験のようす」

## 8 参加生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

- 生徒の感想
  - ・ 見学をしてみて、とても楽しかった。何千年も前の土器に直接触れているのは不思議な感じがした。喜界島の歴史に触れることができよかった。
  - ・ 出土された土器などの模様を傷つけずに磨くのは大変だったけれど、破片を組み合わせる作業はバズルみたいで楽しかった。
- 教員の感想
  - ・ 生徒の住む地域に歴史的に貴重な遺跡があることに触れることができ、社会科の学習のよい動機付けになった。
- 地域の方の感想
  - ・ まだまだ発掘作業中で出土するものに歴史的な価値付けがなされている途中で、今後研究が進む過程を直接体験させることができうれしい。